

第1学年2組 図画工作科学学習指導案

指導者 安田 晶子

1 題材名 つくって ためして ペーパーアート

「自由にどうぞ」と言われただけでは、動き出せない子どもがいる。つくるもの、描くことを決めて動き始めたとしても、目新しいことを思い付いたり試したりすることなく、自分にとって無難な「できた」へと向かう子どももいる。物事を見通す力が高かったり、言葉の力を獲得していたりすると、その傾向が強くなることもある。また、発達段階等から、早い段階で諦めようとする子どももいる。全ての子どもが、つくりだす喜びを味わえるようになってほしい。

そこで本題材では、立体の造形活動に造形遊びの要素を取り入れながら、学習過程や場づくりを工夫する。全ての子どもがもつ、遊びを発展させながら学ぶ力を引き出すためだ。その中で子どもたちが、材料の造形的多様性および仲間の多様性を楽しく感じとることができれば、集団の中で自己を表現することへの不安感を軽減できる。そして、遊ぶように試行錯誤を楽しみ、自分の見方や考え方を広げながら、創造活動へと学びを深めていけるようにする。そうして、全ての子どもが、つくりだす喜びを味わうことを目指す。

2 題材について

- (1) 本題材では、花紙の様々な形や触った感じから、材料や作品等を基に自分の見方や感じ方を広げ、思い付いたものをつくる学習活動にたのしく取り組み、つくりだす喜びを味わうことができるようにすることをねらいとしている。
- (2) 子どもたちは入学後、粘土やクレヨン、洗濯バサミなど、材料と存分に関わりながら造形活動をたのしんでいる。本題材は、紙を材料とした立体の内容であり、つくりたいものをつくる学習である。粘土を材料とした「いっしょにおさんぽ」(1・2上)や「にぎにぎねんど」(1・2下)、紙やひもを使つての「くしゃくしゃぎゅっ」(1・2下)につながるものである。
- (3) 本題材に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数34人)

これまでお花紙で、ものづくりをしたことがある子どもは、20 人だった。ものづくりをしたことはないが、見たり聞いたりしたことがあるのは 7 人、見たことも聞いたこともない子どもは 7 人である。ものづくりをしたことのある 20 人のうち、お花をつくったという子どもは 14 人だった。その人数構成から、授業で花紙を手にした時、おそらく一般的な飾り花づくりに傾倒する子どもが一定数いることが予想される。

本学級での造形活動において、普段は2人程度、始め手が動かず支援を要する子どもが出てくる。どの子どもかは固定されておらず、題材の内容によって異なるため、教師は全体を見つつ探さなければならない。また、「何をつくろう」と迷いが生ずる子どもも、5人程度出てくることが多い。

3 題材の目標

- (1) 自分の感覚や行為を通して、花紙の様々な形や触った感じなどに気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、材料や道具を工夫して使うことができるようにする。
- (2) 花紙や自分たちの作品などから、造形的な面白さやたのしさを感じ取ったり、表したいこと、表し方などについて考えたりして、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。
- (3) 花紙の形を変えながら思い付いたものをつくる学習活動にたのしく取り組み、つくりだす喜びを味わうことができるようにする。

4 指導計画(6時間取り扱い)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1 ためす (1)花紙の形を変えることをたのしむ。	○ 材料との関わり方を表す言葉を引き出す。 ○ 仲間の動きが互いに自然と視野に入るよう、活動場所を工夫する。	【知】自分の感覚や行為を通して、花紙の様々な形や触った感じなどに気付いている。 【技】手や体全体の感覚などを働かせ、道具等を工夫して使っている。
2	(2)花紙に色をつけることをたのしむ。	○ 彩色の工夫を表す言葉を引き出す。 ○ 動線(乾燥スペースとの行き来等)を考慮して場づくりを行う。 ○ 次時の予告をして、イメージをじっくり膨らませられるようにする。	【思】花紙の造形的な面白さやたのしさなどについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。
3 ・ 4 ・ 5	2 つくりたいものをつくる。 (1)飾り付けたいものを考える。 (2)思いのままに、飾りや作りたいものをつくる。 (3)つくった飾りを台紙に置きながら、更につくりたいものをつくる。	○ 自分が飾り付けたいものを、自己決定できるようにする。 ○ 形や色とイメージとのつながりを表す言葉を引き出せるようにする。 ○ 自分なりのこだわりや工夫をしている姿を価値付けする。 ○ 手が止まっている子どもには、仲間とつなぐ、材料とつなぐ、励ますなど、支援を個別に判断する。	【思】花紙の形や触った感じなどを基に自分のイメージをもちながら、感じたこと・想像したことなどから表したいことを見付けている。 【思】様々な形や色を考えたり、好きな色を選んだりしながら、どのように表すかについて考えている。 【主】花紙の形を変えながら思い付いたものをつくる学習活動にたのしく取り組み、つくりだす喜びを味わっている。
6	3 活動を振り返る。 (1) つくったものを紹介し合う。 (2) 班ごとに造形物を使って、お話づくりをたのしむ。	○ 創造活動そのものへの充実感を自覚するとともに、造形的な工夫へのこだわりを自覚することができるように促す。	【思】自分たちの作品の造形的な面白さやたのしさ、表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。

5 本時の学習

(1) 目標

花紙の様々な形や触った感じなどから、つくりたいものを思いつきながら、道具等を工夫して使うことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
5	1 飾り付けたいものを考える。	○ できるかな。心配。 ○ 強そうなマントをつくりたいな。 ○ 大好きなお魚を飾り付けたいな。 ○ つくりながら考えよう。
30	2 思いのままに、飾りやつくりたいものをつくる。	○ ビリビリって、やぶけたよ。使えるかな。 ○ ねじれたよ。リボンみたい。 ○ ねじりすぎたら、やぶけちゃった。 ○ 折って、広げたら、折り目が模様みたいになったよ。 ○ ななめに何回も折ったら面白い形ができた。 ○ 丸めたら少し広がって、止まった。ふんわりボールみたい。 ○ 水でぬらしてつぶしたら、かたくて小さなボールみたいになった。 ○ 少しぬらしたら、乾いた時に少しでこぼこ模様みたいなのができた。 ○ ちぎったら、花びらみたい。 ○ 何枚も重ねて、しぼったらきれい。 ○ その技、面白そう。私もやってみよう。
10	3 活動を振り返る。花紙のよさを実感する。	○ 楽しかった。 ○ たくさんの飾りをつくったよ。嬉しかった。 ○ おはながみで、いろいろな飾りがつくれた。次は何をつくろうかな。 ○ 同じ飾りでも、使い方が違う。面白いね。



思いのままに材料と関わり、試行錯誤の中で自他の作品や材料のよさに気づき、つくり出す喜びを味わえるよう促していきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援(発問・指示・教具・評価)

- 前時までの活動を振り返ることで、花紙が持つ造形的な可能性の幅広さを想起することができるようにする。

おはながみで ○○の かざりをつくろう

- 道具は、安全に使うことだけでなく、よく考えて選び、自由に使えるようになることが大切だと気付くことができるようにする。
- つくりたいもののイメージを定めてつくり始めること、つくりながらイメージを膨らませていくことのどちらも、価値ある学び方であることを確かめる。
- 教師や友達との対話を通して、材料の特徴や面白さ、自分の工夫に気付くことができるようにする。
- 手が止まっている子に対しては、思考中か思考も止まっているか、表情を見たり尋ねたりして、学びの状況を見極める。
- 思考が停滞している子どもに対しては、教師や友達との対話を通して、花紙が形を変えていくことへの面白さに気付いたり、自分がつくりたいものを思いついたりして、試しの活動に進めることができるようにする。
- 慣れていない材料でも、つくり、つくりかえていく試行錯誤を自然に行っていけるよう、材料や道具は手の届くところに配置し、不足することがないように十分な量を用意する。
- 本時の体験を振り返ることで、花紙に触れてたのしかった感覚を自覚できるようにする。
- 見付けた変身技を全体で振り返り、花紙が持つ造形的な可能性の幅広さに気付くことができるようにする。
- つくりたいと思ったもののイメージを話したり聞いたりする中で、造形的な要素へのこだわりをもつことができるように促す。
- 表したいことが決まっていない子どもには、できた形からイメージを広げていけるよう声をかける。
- 花紙には、造形的なよさが多様にあることに気付けるようにする。
- 形を変えていく活動そのものへの充実感を振り返ることで、つくりだすことへの喜びに気付くことができるようにする。
- 一人一人こだわった技や道具が異なることに気付くことができるようにする。

【評価】

花紙の形を変えながら思い付いたものをつくる学習活動にたのしく取り組んでいる。

【評価】

様々な形や色を考えたり、好きな色を選んだりしながら、どのように表すかについて考えている。